

## 2016 度 小委員会活動成果報告

(2016 年 1 月 12 日作成)

|                              |   |  |
|------------------------------|---|--|
| 小委員会名                        | 新しい住環境価値の創造小委員会   | 主 査 名：野澤 康<br>就任年月：2013 年 4 月  |
| 所属本委員会                       | 都市計画委員会   | 委員長名：鵜 心治  |
| 設 置 期 間                      | 2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月   |  |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | <p>設置目的：<br/>・居住地として維持するためにそのまちの価値を再発見・再価値化するための「まちづくり手法」と「まちづくり活動」のあり方を議論し、一般解の導出のあり方を示す。<br/>・これからの都市が実現すべき都市構造や土地利用の在り方やその実現手法・コントロール手法について議論し、次世代型の都市計画（制度）など、次の議論につながる示唆を得る。</p> <p>2016 年度活動計画：<br/>1) 建築学会大会におけるパネルディスカッションの開催<br/>2) 見学会を通じた先進的な地方都市事例収集<br/>3) 活動成果の出版に向けた検討</p> |  |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))           | <p>委員公募の有無：有</p> <p>野澤康 (工学院大学)：小委員会主査、岡絵理子 (関西大学)：小委員会幹事、桑田仁 (芝浦工業大学)：小委員会幹事、秋田典子 (千葉大学)、内田奈芳美 (埼玉大学)、佐久間康富 (大阪市立大学)、田中友章 (明治大学)、藤井正男 (UR 都市機構)、山中知彦 (新潟県立大学)、星卓志 (工学院大学)、高鍋剛 (都市環境研究所)、加藤浩司 (有明工業高等専門学校)、木内望 (国土交通省国土技術政策総合研究所)</p>   |  |
| 設置 WG                        |   |  |
| 2016 年度予算                    | 200,000 円   | ホームページ公開の有無：<br>委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s7/">http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s7/</a> |

| 項 目                      | 自己評価  |
|--------------------------|---|
| 委員会開催数                   | 4 回   |
| 刊行物                      |   |
| 講習会                      |   |
| 催し物／*能力開発支援<br>事業委員会承認企画 |   |
| 大会研究集会                   | 1. (名称) 限界住環境のゆくえ- 次世代型住環境価値の創造<br>(資料名) 同上   |
| 対外的意見表明・パ<br>ブリックコメント等   |   |
| (当初の活動計画と得ら<br>れた成果との関係) | <p>1. 予定通り建築学会大会においてパネルディスカッションを開催した。当日は小委員会メンバー以外の研究者を交えて有意義な議論ができたこと、また資料が即日完売したことから、十分な成果を挙げたと考える</p> <p>2. 大会終了後に福岡県八女市における、歴史的資源を生かしたまちづくり事例を見学した。複数の NPO へのヒアリングや活用事例を見学するなどの成果を挙げることができた</p> <p>3. 活動成果の出版について、読者層/内容/出版社/スケジュール等について継続して議論を行っている途中である</p> <p>これら当初の活動計画に加え、本小委員会のメンバーで研究企画を議論し申請した科研費を獲得することができた。本小委員会は 2017 年 3 月で終了するが、以降も継続して議論を行っていく目途が立った。</p> <p>以上、活動成果の出版については進捗が遅れているものの、科研費の取得に成功する等の新たな成果もあり、目標はほぼ達成できたと考えている。</p> |
| 員会活動の問題点<br>・課題          | 1. 上記と重複するが、活動成果の出版についてさらに注力し、なるべく早い段階で具現化する必要がある。  |